

後期学校評価のためのアンケート結果・考察

表の見方

重要度・実現度：7点満点で、数字が高ければ「重要である」「できている」と評価できる。

ニーズ度：数字が高ければ重要度と実現度の差が大きく取組の見直しが必要とされる。

【児童】

	質問文	低学年	中学年	高学年
確かな学力	1 授業中、勉強はよくわかりますか。	5.8 ↑	6.0	5.6 ↑
	2 授業中、勉強に一生懸命取り組んでいますか。	6.1 ↓	5.9 ↑	5.4
	3 進んで発表したり、しっかり人の話を聞いたりしていますか。	5.8 ↓	5.3	4.6 ↑
	4 毎日、決まった時間、家庭学習をしていますか。(15分×学年)	5.7 ↑	4.7 ↓	3.9
	5 学校や家で、進んで読書をしていますか。(本を読んでいますか)	4.6 ↓	4.8 ↓	3.4 ↓
豊かな心	6 クラスや学校での生活は楽しいですか。	6.6 ↑	6.4 ↓	5.8 ↓
	7 進んで「おはよう」「ありがとう」などのあいさつが言えますか。	6.3 ↑	5.9 ↓	5.6 ↑
	8 学校やクラスのきまりや約束を守っていますか。	6.1	5.6 ↓	5.5 ↑
	9 思いやりの気持ちを持ち、相手のことを考えて行動していますか。	6.0 ↑	5.8 ↓	5.5 ↑
	10 進んで係や当番の仕事をしていますか。	6.4	6.3 ↓	5.8
健康的な生活	11 早寝・早起き・朝ごはんなど、規則正しい生活をしていますか。	5.4 ↑	5.5 ↓	4.9
	12 8時間以上の睡眠をとっていますか。	5.7 ↑	5.6 ↑	5.2
	13 クラスや学校の活動や生活で、人の役に立っていると感じていますか。	5.4 ↓	5.0 ↓	4.5 ↑
自己肯定感	14 自分には、よいところがあると思いますか。	5.7 ↑	4.7 ↓	4.4 ↑
	15 今の自分が好きですか。	5.9 ↑	5.0 ↓	4.6 ↑
いじめ	16 学校であったことを、家の人に話していますか。	5.8 ↓	5.8 ↓	5.0 ↓
	17 困ったことやいやなことがあったら、友達や周りの大人に相談できますか。	5.8 ↑	5.5	5.0
	18 クラスや学年、学校の仲間を大切にしていますか。	6.4 ↓	6.2 ↓	5.9 ↑

【保護者・教職員】

	質問文	保護者			教職員		
		重要度	実現度	ニーズ度	重要度	実現度	ニーズ度
確かな学力	1 子どもにとって授業がよく分かること。	6.3 ↓	5.0 ↓	18.7 ↓	6.7 ↑	4.9	20.8 ↑
	2 子どもが授業に一生懸命取り組むこと。	6.3 ↓	5.3 ↓	17.2 ↑	6.5 ↑	5.1 ↑	19.0 ↓
	3 授業中、子どもが進んで発表したり、しっかり周りの話を聞いたりすること。	6.0 ↓	4.9 ↑	18.8 ↓	6.4 ↓	4.7 ↓	21.1 ↑
	4 子どもが毎日、学年相応(10～15分×学年)の時間、家庭学習に取り組むこと。	5.8 ↓	4.4 ↓	20.6 ↑	6.1 ↑	3.7 ↓	26.6 ↑
	5 子どもが学校や家で、進んで読書をする事。	5.9 ↑	3.7 ↓	25.1 ↑	6.1 ↑	3.7 ↓	26.6 ↑
豊かな心	6 子どもが毎日楽しく学校に通うこと。	6.6 ↓	5.7 ↓	15.2 ↑	6.6	5.5 ↓	16.7 ↑
	7 子どもが進んで「おはよう」等の挨拶や、「ありがとう」が言えること。	6.6	5.3 ↑	18.1 ↓	6.7 ↑	4.8 ↑	21.4
	8 子どもが、学級や学校のきまりや約束を守ること。	6.3 ↓	5.5 ↑	15.9 ↓	6.7 ↑	5.1	19.5 ↑
	9 子どもが相手を思いやり、考えて行動すること。	6.6	5.4	16.0 ↓	6.6	5.1 ↓	19.2 ↑
	10 子どもが進んでお手伝いをする事。	5.9 ↑	4.7	19.6 ↑	6.1 ↑	4.9 ↓	19.0 ↑
健康的な生活	11 子どもが早寝・早起き・朝ご飯等、規則正しい生活をする事。	6.4	4.8 ↓	20.2 ↑	6.6 ↑	4.1	25.5 ↑
	12 子どもが8～10時間の睡眠をとること。	6.3 ↓	5.2 ↓	17.7 ↑	6.6 ↑	4.4	23.6 ↑
	13 子どもが人の役に立っていると感じる事。	6.1 ↓	5.1 ↑	18.0 ↓	6.3 ↑	4.8 ↓	20.2 ↑
自己肯定感	14 子どもが自分によいところがあると感じていること。	6.5 ↓	5.3 ↑	17.7 ↓	6.3 ↑	4.9	19.6 ↑
	15 子どもが自分のことを好きと感じること。	6.5	5.6 ↑	15.8 ↓	6.3 ↓	4.9 ↓	19.6 ↑
いじめ	16 子どもが学校であったことを、家の人に話すこと。	6.1 ↓	5.2	17.4 ↓	6.4	5.2	18.1 ↑
	17 子どもが困ったことや嫌なことがあったら、友達や周りの大人に相談できること。	6.5 ↓	5.2 ↑	18.3 ↓	6.6 ↓	5.2 ↓	18.6 ↑
	18 子どもが学級や学年、学校の友達を大切にすること。	6.5	5.7	15.1 ↓	6.7	4.8 ↓	21.4 ↑

◇ アンケートにご協力いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。

学校教育目標：自分でできる みんなとできる 大藪っ子

★ 確かな学力 ★

児童の「授業中、勉強がよくわかりますか」の数値が、前期と比較してアップしました。今年度、全校で取り組んでいる「自分タイム」「みんなタイム」「プレゼンタイム」という学習スタイルの成果であるとも考えています。自分一人で考える時間、少人数で教え合う時間、学んだことを伝え合う時間、それぞれの時間で学びが進み、「わかった」「できた」につながっているようです。まだまだ始めたばかりの取組ですので、これからさらに「おおやぶスタイル」として定着していくよう、授業改善に努めていきます。また学力の定着は、家庭学習があってこそです。習慣化されるまで、ご家庭のお力添えが必要です。引き続き、よろしくお願いいたします。

★ 豊かな心 ★

この項目について、低学年と高学年についてはポイントアップしているのに対して、中学年では下降傾向でした。この頃から思春期に入ることが影響しているのかもしれませんが、わかってはいるのに、素直になれないところが出てくるのもこの頃です。友だち関係ではグループ化が進み、行き違いや独占欲、嫉妬などが表面化することもあります。そんなときこそ「思いやりの気持ちを持ち、相手のことを考えて行動する」とことと共に、互いにコミュニケーションを図ることが大切になってきます。

★ 健やかな体 ★

今回までの質問項目は学年によって「8～10時間の睡眠をとっていますか」でした。しかし、厚生労働省では小学生の推奨睡眠時間は9時間以上となっています。そこで、本校でも低学年10時間、中学年9.5時間、高学年9時間以上を目安に取組を進めています。睡眠不足は、肥満のリスクや学業成績の低下、神経認知機能の低下、社会的感情スキルの低下につながる可能性が高いとも言われます。加えて本校は、遅刻者が多い現状もあります。しっかり睡眠時間を確保するためには何が大切なのでしょうか。1日24時間という与えられた時間は同じです。その24時間の使い道を今一度、学校や家庭でも見直していく必要があります。計画性の重要度は、前期学校評価のためのアンケートでも明らかになっていました。学校から帰ってからの時間の使い方を考え、行動していく、そのような取組も来年度、着手していきたいと考えています。

★ ピア・サポート ★

高学年のピア・サポートの項目ポイントがすべてアップしました。保護者の方の同じ項目もアップしています。アンケート調査の時期がちょうど「大藪フェスティバル」終了後だったこともありますが、大変嬉しいことです。大藪フェスティバルを通して、高学年は下級生をリードし、たてわりグループまとめ、やり切ったという達成感を得ることができたようです。下級生から「楽しかったよ」「優しくしてくれてありがとう」と感謝の言葉を受けたり、大人から労いの言葉をかけられたりしたことで自己肯定感、自己有用感が高まったと考えられます。これからも取組や活動だけで終わらず、ふり返りもみんなで大切に行っていきたいと思います。

2/19(水) 久世学区学校運営協議会

第3回学校運営協議会を開催いたしました。学校長より今年度の久世三校の具体的取組を確認しあい、PTA会長や地域の有識者と久世地域のこれまでとこれから、子ども達のこれまでとこれからについて協議しました。最後に大学の先生方から「変わりゆく久世の地域を久世三校が学校を中心として、地域を1つにまとめていくことが今後益々求められていく」とのご意見をいただきました。



★ 記述式回答 ★

「子ども達の将来が幸せなものになるため、家庭で工夫したり、

取り組んだりしていることは何ですか。」

第2回保護者アンケートの最後に、このような問いを付けさせていただきました。大藪小学校では、『**自分でできる みんなとできる** 大藪っ子』を学校教育目標に、子どもたちが将来、社会に出たときに必要な『生きる力』を育もうと日々教育実践にあたっています。大藪小学校のすべての教育活動は、子ども達の将来が幸せなものになるために活動しています。子どもたちが将来、幸せに生活できることが至上目的です。

そこで、保護者の方にも上のような質問の答えを考えていただきました。皆さんの貴重な意見を共有し、今後の学校教育の指針に反映させていただこうと思います。回答ありがとうございました。回答の中で特に多かったものを紹介します。

1. 子どもと話す時間をつくる。

子どもの話を大事に聴き、親の思いを伝える。

スキンシップを大切にする。

2. 子どもがやりたいと思ったことを認め、

どんなことでも体験・経験させる。

3. 挨拶をしっかりとする。

コミュニケーション

体験・経験

保護者の方が書いてくださった記述内容を大きく分けると、上の3つに分類することができました。

1つは、忙しい中でも**親子の時間を大切にしている**というご意見です。毎日、10分でも子どもと向き合う時間をとっておられたり、「生まれてきてくれてありがとう」や「大切だよ」というメッセージを伝えておられる家庭があったり、一緒にお風呂に入ったり、食事をしたり、スキンシップをとったりして、親子の時間を生み出す工夫をされていました。

2つ目は、子どもの興味のあることや、やりたいと思ったことを否定せず、何でも**挑戦**させてあげることで。その際、大切にされていることは、**子ども自身が自己決定**することだそうです。自分で決めたことを最後まで認め、させてみるということでした。上手いかななくても、失敗しても、「いい経験ができたね。」と挑戦したことを認めてあげる、そんな体験や経験をいっぱい積ませたいというご意見でした。

3つ目は、**挨拶**を大切にしているというご意見です。「おはよう」「ただいま」などの挨拶から、何か迷惑をかけてしまったときには「ごめんね」、何か手伝ってもらったり、助けてもらったりしたときには「ありがとう」と言える子に育てほしい。そのためには、まずは**大人がお手本**となるように、知らない人でも挨拶するように心がけているというご意見もありました。

どのご意見も「子どもたちの将来を幸せなものにしたい」という願いが込められています。大藪小学校の教育活動も同じです。今やっていることが、子どもたちの将来と繋がっているということをできるだけ分かりやすく伝え、自分の未来を切り拓く力をつけていきたいと思います。子どもたちが大きくなって、大藪小学校で学べたことを誇りに思えるような教育活動にしていきます。

これからの未来をつくる子どもたちがいきいきと活動し、成長していけるよう今回の学校評価アンケートの結果をもとに来年度もさらなる取組を進めていきたいと思います。そのためには、ますます学校・家庭・地域の連携が大切だと考えます。来年度も本校教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。